

ジャガイモシロシストセンチュウとは

ばれいしょ等の根部に寄生する線虫の一種で、ばれいしょ生産に被害をもたらす難防除害虫。

発生した場合は、土壌の分散によるまん延を防止するための対策や発生密度を低減するための対策の徹底が必要。

【分布】

インド、ヨーロッパ、ロシア、米国、カナダ、コロンビア、ペルー、ニュージーランド等

【寄主植物】

ばれいしょ（ジャガイモ）、ナス等のナス科植物

【生態】

雌は交尾後、虫体が卵を保持したまま硬化・褐色化しシスト（包のう）となる。シストは、長期間にわたって乾燥や低温等に耐えることができる。

本種は、ほとんど移動しないため、シストを含んだ土壌がばれいしょ、農業用機械類に付着して、人為的に移動する。

なお、栽培中に本線虫が付着していたばれいしょを食べても、人体への影響はない。

【被害】

本線虫が寄生したばれいしょは、根の生育が阻害されるため、葉の縮れや黄化等の症状がみられ、やがて枯死する。その結果、収穫量の低下を引き起こす。

【防除対策】

発生した場合は、土壌の分散によるまん延を防止するとともに、発生ほ場では、土壌くん蒸、対抗植物の植栽などの防除対策により発生密度を低減し、封じ込めを行うこととなる。

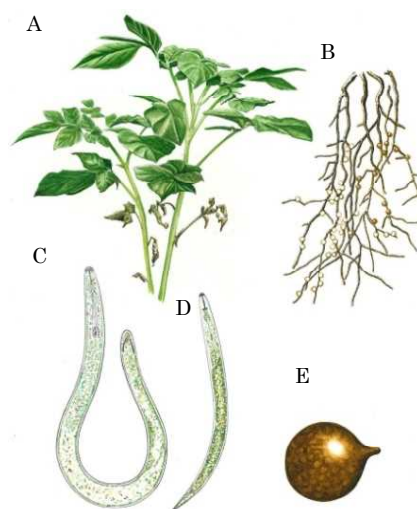


図 ジャガイモシロシストセンチュウ

A: ジャガイモ地上部の被害

B: シストが寄生した根

C: 雄成虫 D: 幼虫 E: シスト

※雄成虫は1.2mm程度、幼虫は0.5mm程度、シストは0.6mm程度。